

令和3年4月27日

資料提供

《令和3年度 高野町教育委員会「英語教育の推進」について》

高野町では第4次高野町長期総合計画教育に掲げる「英語教育の推進」を実施します。これらの事業を推進することにより、教育の質の向上、国際化への対応、小中連携の推進を図ります。

《 令和3年度 教育委員会重点事業 》

1 「英語教育改革プロジェクト（使える英語）」

（令和3年度 予算額 28,000 千円）

小学校1年生から中学校3年生までの9年間を一貫したカリキュラムを作成し、「英語理解」基に、「使う英語」への変換を図り、更には英語を使った実践的コミュニケーション能力の育成を目指し、もって子ども達の未来の選択肢を広げる。

《県内初の試み》*Point*

- ① 小中の教員が校種を超え小中一貫（9年間）したカリキュラムの作成
- ② 英語教育の課題である英会話力の脆弱性を克服する。
- ③ より質の高い授業を目指すとともに、高野町の英語教育が持続可能な取り組みとなるよう教員（指導者）の育成を同時におこなう。

上記を目標に専門機関(ブリティッシュカウンシル)と協働し「英語教育の普遍的なシステム」を作りあげる。

本年度は、児童生徒の英語能力及び教職員の英語授業の現状を把握・分析をおこないカリキュラムを作成する。

令和4年度からは、カリキュラムの実践、効果検証をおこなうとともに、小学校と中学校が連携した英語教育の仕組みを構築し、高野町版英語教育モデルを作る。(別添資料1)

2 「学びの交流拠点整備事業」

（令和3年度 予算額 629,000 千円）

重点事業等を機能的に進めるため、町内（鶯谷地区）に「こども園、小学校、中学校、公民館、給食センター」を建設するとともに、子どもから高齢者まであらゆる世代の交流できる学校教育及び社会教育の拠点となるような施設を一体的に整備する。(別添資料2)

お問い合わせ先

高野町教育委員会

田中、岡本、松谷

TEL 0736-56-3050 (代表)

FAX 0736-56-4831

高野町英語教育改革プロジェクト概要

新学習指導要領では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能に加えて、「対話する」ことも重視されるようになりました。小学3年生からは外国語活動が必修化し、5-6年生では評価が伴う「教科」となり、より系統的な指導が求められます。中学校でも基本的に英語で行う授業を通して、実践的なコミュニケーション能力の育成を求めています。指導者中心の「教える」授業から、学習者中心で「学ぶ」授業への変換を指し、英語の知識だけではなく、英語で「何ができるか」がより重視されます。

一般的な英語教育における課題

- ・ (小学校) 担任による英語指導の専門性及び経験不足
- ・ (中学校) 特に「話す」ことや言語活動中心の効果的な指導法や教材の不足
- ・ (全体) 新しい英語指導について共通のイメージをもつこと、指導改善をチームで行う風土の育成 等

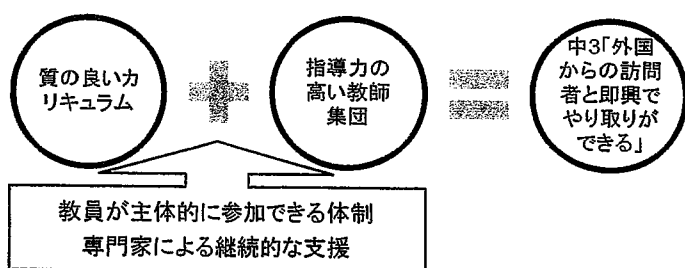
教師自身も受けたことがない授業が求められている！

高野町の児童生徒の学習意欲を高め、英語によるコミュニケーション力育成のために必要なこと

- ① 【カリキュラム】 9年間の学習成果として、中学校卒業時に、どの子どももバランスよく英語を使うことができるカリキュラム。学習目標、単元計画、授業案、学習評価、教材等が一体であることが重要。
- ② 【効果的な指導法】 経験知だけでなく、先行知見に基づいた、実績のある指導テクニックを習得し、毎日の授業で実践する。
- ③ 【自律的な教員集団】 上記の2つを、教員集団として、継続的に自律的に授業改善を続ける。

このプロジェクトでの具体的な取り組み内容

- ・ 小学校と中学校で、中心的役割を果たす「プロジェクトリーダー」となる教師を育成
- ・ 専門家*の支援を受けながら、9年間のカリキュラム、授業案、評価規準等を作成
- ・ 実績のある効果的な指導テクニックを専門家から習得、専門家とプロジェクトリーダーで授業支援を実施
- ・ カリキュラムに基づいた授業を高野町教員が行い、授業観察等やグループ協議をしながら、チームとしての資質向上の枠組みにそって、授業改善を実施
- ・ 教師が主体的に参画できるよう、教育委員会が体制づくりを支援、管理職・教員・生徒・保護者間で、英語学習・指導に関するビジョンを共有できるしかけ



OECDをはじめ多くの国際研究では、「**教師に投資をすることが最も教育効果が高い**」ということが定説です。このプロジェクトでは、先行研究と日本での経験を活用し、児童生徒の学習成果を導くために、**指導ができる教員集団づくり**に力点を置きます。

令和3(2021) 基盤	令和4(2022) 導入	令和5(2023) 展開	令和6(2024) 充実	令和7(2025) 自律
・現状把握 ・カリキュラム開発	・実績のある指導テクニックの研修 ・新カリキュラム開始	・指導テクニックの研修(継続) ・チーム力向上の基盤づくり	・助言を受けながら、チームでの授業改善を充実	・すべて自分たちで実施

本事業における専門家*とは・・・英国の公的な国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルは、世界各地で英語教育の向上に資することを組織の重点としており、英語教育に関するさまざまな経験と知見を有する組織です。日本においては、文部科学省を始め各地の教育委員会や教員との協働活動等を通して、日本の英語教育水準の向上に貢献する活動を行ってきました。

高野町では、子供から高齢者まであらゆる世代が学びを通じて交流ができる環境を目指し、「高野町学びの交流拠点整備事業」の準備工事を令和3年4月から開始しました。

本事業は、高野山こども園、高野山小学校、高野山中学校、高野町中央公民館、高野町給食センターを集約・複合施設として建設する事業です。

この事業の事業者選定について、設計及び施工を一括で発注する「デザインビルド方式」を採用し、効率的・効果的かつ安定的な業務遂行能力と高度な技術提案力を含むノウハウを有する受注者を選定するため、公募型プロポーザルを実施しました。4グループからの応募があり、選考の結果、松井建設・安井建築設計グループが最優秀提案者に選ばれ、令和2年12月議会において承認を受け、本契約を行い、設計業務等を開始しています。

現在、基本設計、実施設計を進めるにあたり、住民・教職員・事業者が一体となって完成後の施設のイメージを共有しながら新しい時代の学びに対応した環境についてワークショップで議論を重ねています。

■完成後のイメージパース



■工事期間 令和3年4月1日から令和6年7月31日

■事業者 松井建設・安井設計グループ

代表者（施工） 松井建設株式会社 大阪支店

構成員（設計・工事監理） 株式会社安井建築設計事務所

■ホームページ

本事業について <http://www.town.koya.wakayama.jp/town/shisetsu/12942.html>

事業進捗状況について <https://www.town.koya.wakayama.jp/town/shisetsu/15981.html>